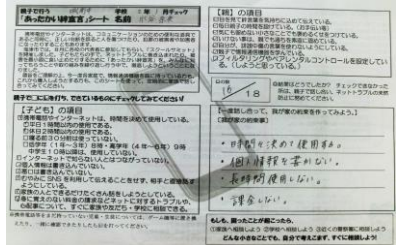


学校行事参加型＋体験活動参加型＋講演会型＋在宅取組型（中学校）

学校名等	海津市立城南中学校
実施日時	平成31年1月16日(水) 13:30~15:30
会場	城南中学校 体育館
参加人数	2年生生徒114人及び保護者51名、地域の方30名 協力:岐阜経済大マイスター倶楽部の方6名
学習課題(分野)	あったかい絆宣言「情報モラルワークショップ」(約束運動)
運営者の願い	現在、スマホは幅広い世代で日常生活と密接にかかわっている。そこで、スマホを使用するにあたり良い点と問題点を考え、正しく活用する上で必要なことを、家庭・仲間・地域で交流する。



『あったかい絆宣言』チェックシート

学 習 の 内 容

<ワークショップ開催にあたり>

海津市が取り組む「あったかい絆宣言」運動が今年で3年目となる。昨年は、ワークショップを開催し、多くの課題があげられた。今年は、より具体性をもたせるため「スマホ」をテーマに実施し、継続的に取り組んだ。

地域の方（青少年育成推進員・青少年育成指導員・南濃町主任児童員・地域のコミュニティ診断士）と岐阜経済大マイスター倶楽部の方に協力をいただく。

<ワークショップの進め方>

【在宅取組】 学期毎に、あったかい絆宣言チェックシートの実施。

ワークショップに向けSNSの良さ（ピンク）と問題点（青）を考え、付箋に記入する。

【ワークショップ】 24グループに分かれる（親子と地域の方混合）。1グループ10名程。

◇開会あいさつ 青少年推進員、学校長

情報機器はこれから社会で活躍する若者たちには不可欠なもの。上手く利用するために、気を付けるべきこと、考えなければならないことがある。意見を出し合い、交流してほしい。

◇進行・コーディネーター マイスター倶楽部の小川さん

①アイスブレイク グループの人に見えないように、簡単な問い（赤い果物といえど？等）に同じ答えがないよう予想しメモに記入。全員が書いたら見せ合う。結果は？

②KJ法によるワークショップ ～スマホのどんな機能を使いたいか？よい点と問題点～

1. 家庭で考えてきた良い点、問題点の付箋を☆模造紙に貼る。
2. 付箋の意見をグループ内で交流し、分類して見出しをつける。
3. 気を付けたいこと、まとめをする。
4. 小川さんに2～3グループを選出してもらい、発表をする。



グループ交流の様子

③まとめ 小川さんによるまとめと講評。

④事例紹介 教育委員会よりトラブル事例と回避策、トラブルにあった時の対応法の話

◇閉会あいさつ 家庭教育学級長、青少年育成推進員副会長

情報機器の利便さや問題点を考えたり、話し合ったりする機会は非常に少ない。貴重な時間であった。また、各家庭でも時々話し合ってもらいたい。



発表の様子:他のグループの意見を真剣に聞く。

【在宅取組】 ワークショップ後、あったかい絆宣言チェックシートの実施。

<保護者アンケートより>

	◎	○	普通	×
参加して	18	29	3	0
親としてネットトラブルについて考えることができたか	16	30	4	0

自分の子供以外の子の意見が聞けて良かった。
子供たちなりに考えてスマホを使っていることが分かった。
スマホの使い方を理解しているので驚いた。子供たちの使い方を再確認できた。

情報化社会に対応できるよう、善悪、判断力、ルールを守ることなどの意識を大切に教えていきたい。
今後トラブルになるかもしれないという意識を常に持って使えるよう教えていきたい。
子供とともに安全に安心してスマホを使用できるよう心掛けたい。

ただ話を聞くだけより、子供と一緒に学び、考えられたことがよかった。

子供とスマホについて話す機会がないので、子供なりの考えを知ることができた。

親同士で意見交換ができてよかった。他の家庭の約束が参考になった。どの家庭も良いことや問題点が同じということが分かった。



【実施日の工夫】

家庭教育学級後は、親子参加での進路の話を位置づけたため、多くの保護者の参加者があった。

【意見の広がり】

親子、仲間、地域の方そしてスマホを使い慣れている大学生も交え、情報モラルについて考えた。世代を超えた意見交流ができた。

【次の在宅取組へ】

ワークショップ開催後3回目チェックシート行い、家庭でのルールの確認と見直しをした。

【工夫点・成果と課題】

コミュニティ診断士の資格を持つ地域の方や大学生のリードを受けながらの進行だったため、多角的な見方ができた。
KJ法とコーディネーターの進行でわかりやすかった。
保護者の参加が多いため、活発な交流ができた。
普段関わりが少ない地域の方とも交流ができた。



☆模造紙→できたワークショップシート:校内に掲示し、意識づける。